



コカ・コーラカップ

2021 千葉オープン女子

10月15~17日 アイキョーボウル

ウララしか勝たん!

森彩奈江の初V夢散。“女王”姫路麗が貫録のV26



▲あわや予選落ちの危機から一転、終わってみれば女王らしさを存分に発揮しての通算26勝目。「20勝を達成してからは、永久シードの先輩方の勝利数に少しでも近づくのが目標」という

コロナ禍で試合数が減少したための特別措置として2シーズンが連結された JPBA の2020/21レギュラーツアー。昨秋たて続けに3勝を挙げ、ポイント、アベレージ、獲得賞金のランキング3部門でトップを独走する姫路だが、今年に入ってから4戦は2位、18位、18位、15位と、ここまで未勝利に終わっていた。

だが「気持ちを新たに臨んだ」準決勝では「予選のラスト2Gのイメージのまま投げられた」と、一転してビッグゲームを連発。8G 1943(242.87avg) で次位に131ピンの大差をつけ、見事トップシードを獲得した。

優勝決定戦の相手は、選抜大会から堅調なボウリングで勝ち残ってきた森彩奈江(40期)。4位進出の決勝ステップラダーでも248、234、222の好スコアで堂本美佐(35期)、越智真南(51期)、宮城鈴菜(42期)を3タテし、悲願の初優勝を目前にした「怖い相手」だった。

試合は息を呑む接戦となった。プロ3年目の女子新人戦以来の優勝決定戦進出ながら「アガっちゃうような緊張はなかった」という森だが、中盤以降のストライクラッシュで相手を退けてきた3位決定戦までとは打って変わり、1投目でことごとく⑩ピンを残し、ストライクは単発に終わる。



対する姫路は「右のレーンよりも(コンディションが)分かっているつもりだった」左レーンの2フレを⑧-⑩スプリットオープン。「何が原因なのか迷った」ものの、3フレからのターキーで持ち直し、6フレ以降は姫路の6ピンリードでスコアが膠着。9フレはともにファウンデーションをマークし、勝負は10フレに持ち込まれた。

運命の1投目。先投げの森の一投は厚みに入って⑧⑩を残し、万事休す。スペアでも勝ちが確定する姫路だったが、鮮やかにオールウェーを決め、昨年11月の JPBA ☆SSSカップ以来の通算26勝目に自ら花を添えた。

「6、8フレで⑩ピンが残ったとき、内のオイルが延びていると確信しました。森さんも左のレーンですと⑩ピンを残していたので、一か八か、10フレは立つ位置を右に1枚寄って⑩ピンを飛ばしに行きました」と姫路。実は1週前のジャパンオープンで、ダブルス戦でペア

男女隔年開催の千葉オープン。昨年の男子大会はコロナ禍で今年2月に延期された末、結局中止となったが、今年女子大会は10月15~17日の3日間、印西市のアイキョーボウルにプロ121名、アマ22名の計143名が参加して無事行われ、トップシードで決勝ステップラダーに進出した“女王”姫路麗(33期・フタバボウル)が、5位決定戦から3連勝して勝ち上がってきた森彩奈江(40期・フリー)の挑戦を退け、今シーズン4勝目、通算26勝目を挙げた。(主催：千葉日报社、千葉県ボウリング場協会/特別協賛：コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社)



▲ノーミスでストライク数も森と同じだったが、連発は10フレのパンチアウトのみ。4位敗退の越智は「ボールの選択を完全にミスった」と悔しさを隠さなかった



▲5位の堂本は「練習ボールで使っていたラインが一気に使えなくなった」と苦しい。「それでも久しぶりに決勝まで進めたのはよかったです」

き。本人にもそう伝えました」これぞ女王の矜持。今風に称賛するならば「ウララしか勝たん!(姫路麗は最高!)」だ。優勝ボール: ロトグリッ プ アテンション・ブラックパール

を組んだアマチュア選手の妹さんを森のペアに斡旋したことで「大会中に4人でお話する機会が多く、森さんがどれくらい優勝を望んでいるかが分かっていた」そうで、試合前も試合後も胸中は複雑だったという。「だからといって手を抜くことは、森さんにも大会の主権者に対しても失礼。勝ちに行く試合をすることが与えられた使命だと自分に言い聞かせて臨みました。この優勝を心から喜べるのは森さんが優勝してくれたと



▲開催センター所属のアドバンテージを生かし、総合21位でベストアマの岩淵明香選手。「次世代P★リーガー発掘プロジェクト」の合格者で、P★Leagueデビューも近いようだ



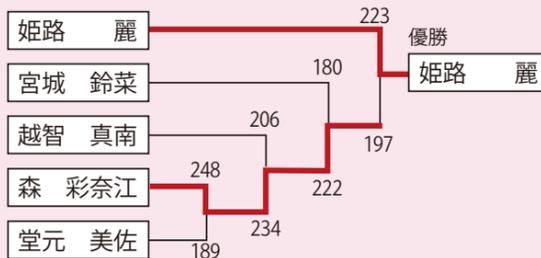
▲「それまでずっと同じボールと立ち位置でいけていたのに、優勝決定戦はコンディションが激変。麗さんのように思い切ってアジャストできればよかったのですが…」と準V惜敗の森

今大会は予選8G(A・B2シフト上位各15名を選出)、準決勝はゼロスタートの8Gで上位5名を決勝ステップラダーに選出するという、異例の競技方法での短期決戦。姫路は予選前半4Gを727(181.75avg)と大きく出遅れ、6G終了時点でも通過ラインまで100ピン近くあるという危機的状況だったが、「思い切ってそれまでとは違う攻め方…ボールやコースを変えたのが当たった」と、ラスト2Gで257、255のハイスコアをマークし、Bシフトの末席(総合29位)で辛くも予選を突破した。



▲「最初のうち(選抜大会)は緊張してうまく投げられなかったが、予選からは少し試合勘も戻っていいスコアが出せた。3位決定戦は、自分がここだと決めたラインにオイルがなくなっているのを把握できなかったのが敗因」と、今シーズン初出場で3位の宮城

●決勝ステップラダー



●優勝決定戦

森 彩奈江	8	9	9	9	9	9	9	9	8	8
	19	38	58	78	98	118	137	157	177	197
姫路 麗	⑧	⑩	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
	19	28	58	87	107	124	143	163	193	223

《お詫びと訂正》本紙10月号6面掲載の「斉藤志乃がプロ50周年記念大会」の記事中に「黒田仙雄(42期)・佐藤多美(38期)夫妻」との記述がありますが、お二人は同じセンター(米沢ボウリングレーンズ)に所属する同僚で、夫婦ではありません。お詫びして訂正いたします。(編集室)